

# 整形外科 臨床研修到達目標（必修）

## 1. 特徴

人工関節は 20 年以上に渡る定期的な述語フォローを行っています。THA は症例により前方進入にて施行し、TKA ではナビゲーションシステムを用いて、より正確な手術を目指しています。

脊椎手術は術後早期復帰を目標に低侵襲手術を心掛けています。また、固定は経皮的 MIS 手術で行っています。

前十字靭帯損傷や半月板損傷、足関節疾患など、下肢スポーツ外傷を中心とした関節鏡による低侵襲手術を行っています。

## 2. ねらい

成人整形外科、小児整形外科、災害外科、整形外科的リハビリテーションにおける診断と治療に必要な基礎知識を身につけ、実践できるようにする。

## 3. 一般目標

### 1) 診察ならびに検査

- (1) 患者の病歴を正しく聴取できる
- (2) 患者を診察し、所見をカルテに記載できる
- (3) 診察結果から必要な検査計画をたて、実践できる
- (4) 単純 X線撮影の指示ができる
- (5) 骨折、脱臼、捻挫の診断ができる
- (6) 骨折、脱臼、の合併症について述べることができる
- (7) 脊髓造影ができ、造影像の異常所見を指摘できる
- (8) 椎間板造影、神経根造影の意義と方法について述べることができる
- (9) 各種画像や関節造影の意義と方法とその所見について述べることができる

### 2) 治療

- (1) 整形外科領域における主な薬剤を使用することができる
- (2) 無菌的処理を行うことができる
- (3) 滅菌手術着や手袋の着用ができる
- (4) 手術に助手として参加できる
- (5) 局所浸潤麻酔や伝達麻酔ができる
- (6) 簡単な創縫合ができる
- (7) 関節穿刺、関節注入ができる
- (8) 腰椎穿刺ができる
- (9) 介達牽引、鋼線牽引ができる
- (10) 簡単な骨折、脱臼の徒手整復と外固定ができる
- (11) 開放骨折の処理について述べることができる
- (12) 術前ならびに術後処理の指示ができる
- (13) 装具の処方ならびにチェックができる

#### 4. 研修方略

研修医一人に指導医一人が全般にわたる研修指導に当たる。さらに担当する症例に対しては各疾患に対しての専門医が指導に当たる。部長回診、検討会において、症例呈示により担当する症例に対する理解を深め担当症例以外の疾患についても診療について研修する。

検査としては、脊髄造影、神経根造影、などの手技の習得、徒手検査、レントゲン検査のオーダーの仕方 X-P,CT,MRI の読み方を習得する。

治療としては外傷の初期治療の概念を学び、またギブスシーネ固定などの技術を習得する。その他ギブス固定のアシストができること。

基本的手術手技の習得と整形外科的手術治療に対する理解を深める。

#### 5. 週間スケジュール

| 科    | 月               | 火              | 水               | 木                               | 金          | 土    |
|------|-----------------|----------------|-----------------|---------------------------------|------------|------|
| 整形外科 | 外来              | 8:00 検討会<br>手術 | 病棟回診<br>検査      | 8:00 多職種<br>カンファレンス<br>手術<br>検査 | 外来<br>手術   | 病棟回診 |
|      | 検査<br>装具<br>ギブス | 手術<br>検査       | 手術<br>装具<br>ギブス | 手術<br>検査                        | 部長回診<br>検査 |      |

#### 6. 研修評価

1) 自己評価：PG-EPOC を用いて自己評価を行う

(症候、疾病・病態の経験については PG-EPOC にて確認を行う)

2) 指導医による評価：PG-EPOC を用いて研修医を評価する

(症候、疾病・病態の経験については PG-EPOC にて確認を行う)

3) 研修医による研修体制評価：PG-EPOC を用いて診療科全体（指導内容、研修環境）を評価する

#### 7. 指導体制

指導責任者     小山 尊士    

指 導 医     岩城 敬博

# 整形外科 臨床研修到達目標（選択）

## 1. 特徴

人工関節は20年以上に渡る定期的な述語フォローを行っています。THAは症例により前方進入にて施行し、TKAではナビゲーションシステムを用いて、より正確な手術を目指しています。脊椎手術は術後早期復帰を目標に低侵襲手術を心掛けています。また、固定は経皮的MIS手術で行っていません。前十字靭帯損傷や半月板損傷、足関節疾患など、下肢スポーツ外傷を中心とした関節鏡による低侵襲手術を行っています。また当院は3次救急になっており、外傷は重篤な外傷から大腿骨頸部骨折など高齢者の骨折まで幅広く診療しています。

## 2. ねらい

成人整形外科、小児整形外科、災害外科、整形外科的リハビリテーションにおける診断と治療に必要な知識および技術を身につけ、実践できるようにする。

## 3. 一般目標

### 1) 診察ならびに検査の計画を立てる

- (1) 患者の病歴を正しく聴取できる
- (2) 患者を診察し、所見をカルテに記載できる
- (3) 診察結果から必要な検査計画をたて、実践できる
- (4) 単純 X線撮影の指示ができる
- (5) 骨折、脱臼、捻挫の診断ができる
- (6) 骨折、脱臼、の合併症について述べることができる
- (7) 脊髓造影ができ、造影像の異常所見を指摘できる
- (8) 椎間板造影、神経根造影の意義と方法について述べることができる
- (9) 各種画像や関節造影の意義と方法とその所見について述べることができる

### 2) 治療

- (1) 整形外科領域における主な薬剤を使用することができる
- (2) 無菌的処理を行うことができる
- (3) 診察結果から診断治療計画を立てられる
- (4) 手術に第一助手として参加できる
- (5) 局所浸潤麻酔や伝達麻酔ができる
- (6) 上級医の監視の下簡単な手術が執刀できる
- (7) 関節穿刺、関節注入ができる
- (8) 腰椎穿刺ができる
- (9) 介達牽引、鋼線牽引ができる
- (10) 簡単な骨折、脱臼の徒手整復と外固定ができる
- (11) 開放骨折の初期治療が出来る
- (12) 術前ならびに術後処理の指示ができる
- (13) 装具の処方ならびにチェックができる

#### 4. 研修方略

指導医のチームに参加し、チームで全般にわたる研修指導に当たる。さらに担当する症例に対しては各疾患に対しての専門医が指導に当たる。部長回診、検討会において、症例呈示により担当する症例に対する理解を深め担当症例以外の疾患についても診療について研修する。

検査としては、脊髄造影、神経根造影、などの手技の習得、徒手検査、レントゲン検査のオーダーの仕方 X-P,CT,MRI の読み方を習得する。

治療としては外傷の初期治療の概念を学び、またギブスシーネ固定などの技術を習得する。その他ギブス固定のアシストができること。

簡単な手術は指導医のもと執刀できるようになる。

※週間スケジュール・研修評価・指導体制は必修と同様